

SDGs未来都市計画改定 新旧対照表

選定年度	2020年度
都市名	熊本県水俣市

変更種別	ページ数・項目	新旧対照		変更理由
		新	旧	
KPI	8ページ・(経済)	<p>指標：市内総生産 現在(2016年) <u>859</u>億円 2026年 <u>883</u>億円</p>	<p>指標：市内総生産 現在(2016年) <u>861</u>億円 2026年 <u>885</u>億円</p>	<p>当該KPIは、熊本県が毎年公表している「熊本県市町村民経済計算」の値を記載している。 経済計算は毎年公表され、その度に過去十数年に渡って市町村内総生産が再計算されており、直近で公表されたものが最も精度が高い数値となっているため、修正を行うもの。</p>
文言	8ページ・(経済)	<p>また、各種スポーツ施設やバラ園の整備が進み、広域交流拠点となっている「エコパーク水俣」でのスポーツ大会、イベントの開催、誘致の推進及び、<u>地域課題に触れる水俣独自のワーケーションプログラムの実施により、交流人口を増加させ、地域の活性化を図り、持続可能な地域社会づくりを目指す。</u> さらに、2019年3月に供用開始した南九州西回り自動車道「水俣インターチェンジ」、九州新幹線・新水俣駅とこれらの観光・交流拠点までの誘導、アクセス改善を進めるとともに、<u>2022年10月国民保養温泉地の指定を活かした「水俣ONSENプロモーション」を展開することで、水俣への誘客を加速させる。</u></p>	<p>また、各種スポーツ施設やバラ園の整備が進み、広域交流拠点となっている「エコパーク水俣」でのスポーツ大会、イベントの開催、誘致を推進することで、交流人口を増加させ、地域の活性化を図る。 さらに、2019年3月に供用開始した南九州西回り自動車道「水俣インターチェンジ」、九州新幹線・新水俣駅とこれらの観光・交流拠点までの誘導、アクセス改善を進める。</p>	<p>新たに実施している取組について追記するため。</p>
文言	11ページ・ ①活力ある地場企業づくり	<p>・<u>創業支援の取組</u> <u>商工会議所と連携し、新たに創業しようとする者に対して経費の一部助成をすることで、創業にチャレンジしやすい環境をつくる。</u></p>	<p>また、新たに創業しようとする者に対して経費の一部助成をすることで、創業にチャレンジしやすい環境をつくる。</p>	<p>削除部分を修正し、新たなタイトルを付けを行うため</p>
取組内容	13ページ・ ③地産地消と“みなまたブランド”づくり	<p>「外貨を稼ぐ水俣」推進事業（稼げる 水俣農業推進事業）</p>	<p>農業担い手支援事業</p>	<p>事業統合等による事業名変更</p>

SDGs未来都市計画改定 新旧対照表

選定年度	2020年度
都市名	熊本県水俣市

変更種別	ページ数・項目	新旧対照		変更理由
		新	旧	
文言	14ページ・ 転入者の獲得	水俣市へUターンする若者や、子育て世代を中心とした転入者を確保するため、 <u>転入者による住居新築や中古住宅の取得、市内企業への就職・創業の促進、若年層の奨学金返還支援など</u> といった 様々な支援策を設け、動画やWEB・SNS媒体等を活用しながら本市での暮らし（みなまた暮らし）のPRに取り組む。	水俣市へUターンする若者や、子育て世代を中心とした転入者を確保するため、様々な支援策を設け、動画やWEB・SNS媒体等を活用しながら本市での暮らし（みなまた暮らし）のPRに取り組む。	転入者支援策の具体的な内容を追記
文言	15ページ・ ICTを活用した医療DXの推進	<u>あらゆる世代の住民が住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを最期まで続けることができる地域づくりのため、ICTを活用した医療DXを推進し、医療アクセスの確保や質の高い医療の提供を維持、継続する。</u>	居住している場所にかかわらず、市民が安心して医療や介護・福祉サービス等とアクセスが可能となるICTを活用した情報アクセス拠点の設置と遠隔医療技術の活用、多職種参加型オンライン連携診療の推進等の医療をDX推進する。	ICTを活用した医療DXの推進は目的達成のための手段であり、その手段は多様かつ広範囲であることから、目的と手段を明確化したうえで包括的に表現できる文章としたため。
取組内容		削除	SDGsに関する普及啓発パンフレットの作成・配付 「未来に向けた作文コンクール」の実施	現在は未実施のため
取組内容		追記 ・SDGs未来都市フェスタの開催		R5年度から実施しているイベントの追記
取組内容	17ページ・ (2) 情報発信	<u>・水俣市SDGs未来都市オリジナルロゴマークの作成</u> <u>水俣市のオリジナルロゴマークを決定し、ピンバッジを作成した。市職員が着用しているほか、関係機関や、市内小中学校、高等学校などに配付し、普及啓発を図っている。</u>	・市職員のSDGsピンバッジの着用・庁内各課でのSDGsアイコンの掲示 本市においては、市長をはじめ、課長級以上の職員及びSDGs担当課職員が自発的にSDGsピンバッジを購入、着用し、来庁者等に対するPRを行っている。 また、SDGsの17アイコンをA3用紙にプリントアウトし、庁内各課の見えやすいところに掲示することで、職員の意識共有を図っている。	現在の取組内容に修正

SDGs未来都市計画改定 新旧対照表

選定年度	2020年度
都市名	熊本県水俣市

変更種別	ページ数・項目	新旧対照		変更理由
		新	旧	
取組内容	22ページ～ (3) ステークホルダーとの連携	追加 ・熊本保健科学大学 4者連携協定（水俣高校、熊本保健科学大学、総合医療センター、水俣市）に基づき、水俣高校への出前講座、大学での模擬授業受入れ等を行い、地域課題である保健・医療・福祉の向上及び人材の育成を目指す。		現在の取組内容に修正
取組内容		削除	・コニカミノルタ株式会社	
取組内容		追加 ・佐川急便株式会社、ヤマト運輸株式会社 2024年3月に、宅急便ネットワークを通じた地域の安全・安心向上と地域活性化に向けて、佐川急便株式会社及びヤマト運輸株式会社とそれぞれ包括連携協定を締結した。 この協定において、荷物配達時における地域の見守りや道路異変の通報、子ども向けの交通安全教室などを実施している。		
取組内容		削除	・その他草の根交流等 市内民間団体と連携し、JICA（独立行政法人国際協力機構）による開発途上国からの研修生受入れや、NICE（国際ボランティアNGO）の行う合宿型ワークキャンプの支援を行っている。	